

009_銀河の音と行動心理学_動物の意味_要点

銀河の音と行動心理学（続き）

13の月の暦と音（続き）—動物の意味について

● 各動物が持つ意味と行動特性

13の月の暦における各音に対応する動物には、それぞれ固有の意味と行動特性があります。銀河の音・誕生日の音・紋章を組み合わせることで、その人の行動様式や生き方の傾向をより深く読み解くことができます。以下に、各動物の特性が具体的に解説されています。

音9・ジャガー

ジャガーは目的意識が非常に強い動物です。獲物（目標）がある時は本来の特性を全力で発揮しますが、目的が定まらない状態では力を持て余してしまいます。音9・ジャガーの期間（3月7日～4月3日）に生まれた人、または銀河の音が9の人は、ワクワクするような明確な目的や目指すものがあることでこそ生き生きと輝き、本来の役割を果たしやすくなります。目的が定まらなると本来の力が出ないどころか、「ジャガーがピンクパンサーになってしまう」と表現されています。

音8・鷹

8という数字を横にすると無限大（ ∞ ）のマークになることから、音8は「無限」の意味を持ちます。0に最も近い数であり、四方八方・全方向という意味合いもあるため、いろいろな人の状況や感情が自然と目に入ってくる特性があります。鷹は上空から冷静に全体を俯瞰する生き物であり、その特性から空気を読む能力が高く、人の気持ちに敏感です。一方で、さまざまなエネルギーに敏感なゆえに人間関係で悩みやすい面もあります。この特性を生かすために、ダイアリーで自分の感情を客観視する習慣がとりわけ有効だとされています。

また、鷹は「人の米には絶対に手を出さない」という品性を持つ動物でもあります。どんなに経済的に苦しくても人に迷惑をかけることをしない—音8・鷹の生まれの人にはそういった品性ある生き方が体現しやすいという特性があります。

音3・鹿

鹿は角を持ちながらも人を傷つけることがない、素直さの象徴です。音3・鹿の期間（9月20日～10月17日）に生まれた人、銀河の音が3の人には、根本的な素直

さが備わっています。また、音3は「電気」のエネルギーとも連動しており、電気がさまざまなエネルギーに変換できるように、応用力・融通性（潰しが利く）が高いという特性もあります。さらに音3には「繋げる」というミッションがあり、素直さはそのミッションを果たすための必須条件でもあります。

音5・孔雀

孔雀は普段は目立たない普通の鳥ですが、興奮・追い詰められた時に羽を広げて鮮やかな美しさを発揮します。これは「底力」の象徴です。音5・孔雀の期間に生まれた人、または銀河の音が5の人は、追い詰められた時・責任を持った時・中心的な役割を担った時に本来の底力とパワーを発揮します。控えめに見えても、責任ある立場に置いたときに力を発揮するタイプであるため、積極的に責任を持たせることが大切だと語られています。

音6・トカゲ

トカゲは危険が迫ると尻尾を切り離して脱出します。これは「自分のペース」を何より大切にしている特性を表しています。音6・トカゲの生まれの人を過度に束縛したり「あれもダメ・これもダメ」と制限すると、尻尾を置いて脱走してしまいます。子育てにこの知識を活かすことで、最低限の約束だけを決め、子供の特徴を尊重した関わり方ができるとされています。

音13・亀

亀は急かすことが最もよくない動物です。音13（6月27日～7月24日）の生まれの人は、強烈なオリジナル性を持ち、人の真似をしたくないという特性があります。著名な例として、藤井聡太氏と西野亮廣氏がこの期間の生まれとして挙げられています。亀は決してバックせず、ゆっくりでも着実に前進し続けます。「早くしなさい」という言葉は逆効果であり、そのペースを尊重することが大切です。ジャガー（音9）の親と亀（音13）の子という組み合わせでは、ジャガー親がいくら急かしても亀の子は必死でマイペースに歩むしかなく、無理に急かすと「股関節脱臼」のような状態になってしまうと、ユーモアを交えて警告されています。

音11・蛇

蛇は「ビジネスの神様」とも呼ばれ、商業高校の校章にも蛇のマークが多く使われてきた歴史があります。音11・蛇の期間（5月2日～5月29日）に生まれた人、銀河の音が11の人は、金銭的に恵まれやすいという大きなポイントを持っています。

● 行動心理学的な読み方一音の組み合わせと補完関係

銀河の音（KIN ナンバーの音）と誕生日の音（13の月の暦の音）を組み合わせることで、その人の基本的な行動様式が読み解けます。ここでは具体的な人物を例に解説されています。

組み合わせを読む際の基本ルールとして、2つの音の間の距離が「短い方」を採用します。どちらの順番で読むかは、12を円環とした時に間隔が少ない方向を選ぶことで決まります。間隔が5個以内であればその組み合わせが成立し、それが行動の流れを示します。

斎藤氏の例（音3 × 音11）

KIN93・5月22日生まれ。銀河の音3、誕生日の音11。3と11では間隔が7つと長いため、11→3という方向（間隔4つ）を採用します。「11が先に来る」とは、常に「もっとよい方法があるのでは」という改革的な気持ちが先に立つことを意味します。そして3で着地するため、人と人を繋いだり、自分のところで着地・完結させるという行動様式を取ります。また、3と11は足して14（補完関係）になるため、自己完結型の傾向が強く、プライベートな相談を安易にしないという特徴があります。約17～18年の付き合いの中でプライベートな相談をされたことは一度もないとのこと。

越川氏自身の例（音4 × 音4）

KIN95・10月20日生まれで音4。現在KIN205（音10）が回っており、4×10の組み合わせです。4と10は補完関係であり、自己完結型の側面がありつつ、「発想や思いが形になる」という意味も持ちます。現在モンテッソーリ関連の本の出版・サポートセンターの設立・ホームページのリニューアルなど、長年温めてきた構想が次々に形になっているのはこの10の年回りの影響だと語られています。また4は「フクロウ（学問の神様・夜行性）」の音であるため、スキルを磨き学び続けることが一生のテーマとなります。同じ4の4の著名人としてイチロー氏（10月22日生まれ・KIN212・音4）が挙げられ、安易に人の意見を受け入れず、よっぽど納得しないと動かないという特性が共通点として語られています。

鈴木由紀子氏の例（音11 × 音1）

KIN37・8月8日生まれ。銀河の音11、誕生日の音1。11が先に来て1で完結するパターン。斎藤氏と同じく改革的な気持ちが先に立ちつつ、最終的には「自分が責任を持って決めてやり遂げる」という形で自己完結します。

長谷川部長の例（音3 × 音9）

KIN185・3月生まれで音9。銀河の音3、誕生日の音9。3と9は間隔5個のギリギ

りの組み合わせで、2つとも「動きの大きい音（3・6・9）」に該当します。この組み合わせは「回遊パターン」であり、常に動き続けることが自分を生かす道です。サポートセンター第2部門の責任者として「フル稼働」がそのまま本人のミッションに合致していると述べられています。
